



No.355

今井公民館
館報編集委員会
電話 59-2001
FAX 59-1004

今井地区人権啓発推進協議会主催

平和と命の大切さを学ぶ



76回目の終戦記念日を前に今井公民館・福祉ひろば共催による『平和への願いを込めたお話』が企画されました。

8月11日(水)福祉ひろばにて17名の参加者が蟻ヶ崎在住の鰐川巖夫さんのお話を聞きました。それは、松本歩兵第50連隊所属でテニアン島から奇跡的に生還された故滝沢文男さんから直接聞き取った内容でした。

〈鰐川さんのお話〉

「明治41年陸軍歩兵第50連隊は松本市の旭町に置かれま



お話しされる鰐川さん

した。昭和7年に満州国が建国され、同16年松本50連隊は満州へ移駐。昭和19年2月突如南方への出戦命令を受け、その年の3月6日サイパン島に上陸し、テニアン島に移動。当初戦況が有利に進んだテニアン島には日本の飛行場が作られました。昭和19年6月15日テニアン島に米軍が上陸、7月24日には米軍の艦載機から4万人の米軍が上陸しました。それに向かう日本軍は8千人でした。この戦いで日本軍は敗れ、テニアン島は米軍に占領されました。もちろん飛行場も。

その後この島からB29が飛び立ち、日本への攻撃が始まったのです。昭和20年3月10日の東京大空襲をはじめとする多くの空襲が日本列島を襲いました。広島と長崎の原子爆弾も、このテニアン島からでした」



お話を聞く参加者

鰐川さんのお話の後、DVDで『ソロモン諸島・ガダルカナルの戦い』を観て、『玉音放送』、『鎮魂歌・海行かば』を聴きました。参加者から、小さな声で歌を口ずさむのが聞こえてきました。

最後に参加された方の意見・感想が出されました。

「300万人の犠牲の上に今があるわけです。二度と戦争は繰り返さないことです」
「今井でも万歳塚から兵士が送られ、家族は心引き裂かれる思いだったのでしようね」
「原子爆弾が投下されていなかったら、日本はどうなっていたのでしょうか」等々。
戦後生まれの筆者が幼い頃



ピエロとジェスチャーでコミュニケーション

見た、戦争に繋がる情景があります。片足をなくし、松葉杖でゆつくりと歩く近所の元兵隊のおじさん。そして亡き母は、戦地に赴く兵隊さんに送る歌であろうか、よく唄っていました。

二度と戦争を起ささないために、いま私たちにできることは何でしょうか。筆者はテニアン島、松本50連隊、そして空襲についてもっと学びたいという想いになりました。

「命のお話 人形劇」

7月8日(木)今井公民館・福祉ひろば共催によるふれあい健康教室が開催されました。人形劇を上演してくださる方は、がらくた座の木島知草さん(井川城在住)。地区住民、今井保育園年中さんな



ちょうちよが会場を舞う

ど約60名が参加しました。最初は赤ちゃん人形を使っただ命のお話を聞きました。「生まれた時はお母さんとへその緒でつながっていたんだよ」など保育園の年中さんにわかりやすく教えてくれました。

また、耳が聞こえないピエロが登場し、言葉を話さずに手話などのジェスチャーで、参加者とコミュニケーションを取りました。最後に、はらぺこおむしの人形劇を見ました。はらぺこおむしは成長してちょうちよになり、会場を舞いました。

子どもから大人まで人形劇をとおして命の大切さを学ぶとともに、障がいを持つ方への理解も深めました。

本場の味に納得!! インドカレー教室開催

8月8日(日) 今井公民館調理実習室にて、12名が参加して『本場インドカレー料理教室』が行われました。講師はDOON食堂印度山オーナーシェフのシルプカー・アシシュ氏。本格的なインド家庭料理を体験できるということもあり、募集後すぐに定員に達するほどの人気でした。親子やご近所さん同士で参加される方もいました。



講師から説明を受けながら調理

参加者は3グループに分かれ、今回作るチキンカレーの材料や手順などの説明を受け、調理を開始しました。まずは玉ねぎを粗みじん切りにして45分〜1時間、飴色になるまで根気よく炒めました。その後、生姜やにんにく、鶏肉、ホールトマトを入れ、



玉ねぎを根気よく炒める

様々なスパイス類を投入。途中で、講師に質問しながら試行錯誤の末に香り豊かで美味しそうなカレーが出来上がりました。

調理の合間には講師に母国インドのことをお聞きしました。「インドの一般的な家庭で

つがやま
No.284
「雲上で心身スッキリ」
高橋 俊勝 (公園西)

22年間の単身赴任を終え還暦で故郷に戻った私は、後半生をいかに楽しく健康に生きるかを考えた。そんな折、ラジオで登山家医師が肺と筋力強化、転倒防止に最適と高齢者に山登りを薦めていた。若き日の単独行登山を思い出し、これに飛びついた。先ずは、山で壊した左膝をかば

はナンは殆ど食べません。作るための大きな窯が無いし、とても高価」

「インド人は毎食カレーを食べます。日本の味噌汁と一緒に各家の味があり、本当になくてはならないもの」など、興味深い内容に参加者は驚いたり感心したり…。さらに「皆さんにインドのことを知ってほしいと思っていたので、とてもうれしい」とも話してくださいました。

参加された方々の感想は「初めて本格的なインドカレーを作って感動しました。勉強になったし、何より楽しかった」(50代女性)「具材を切ったり、たくさん炒めたり

い毎日10km歩き、ホームの御嶽乗鞍蝶ヶ岳に年7〜8回登り南アの甲斐駒ヶ岳、塩見岳など日帰り足運びで運んだ。稀に、目の前に熊が現れたり、足下が崩れ谷川の冷水にドボンなど危ないこともあった。高山植物の可憐な花を眺



め汗を拭い歩みて駒草の咲く山稜に立った時、宇宙の温かな力に包まれて体内に力と野生感覚が甦る。下界の憂さや疲れも全て吹き飛んで、「あー生きていく！」と心身がリフレッシュする。

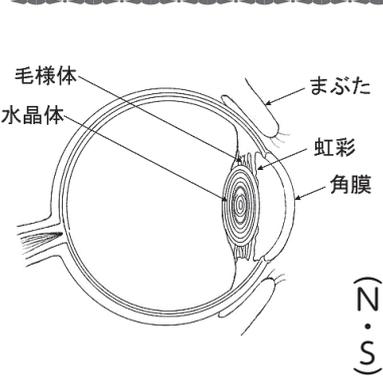
して、大変で少し難しかったけど楽しかった」(親子で参加した小学生)「他のグループのカレーも味見したけど、それぞれ少し味が違って不思議だね。でもどれも美味しい」(60代男性)「珍しい企画でも良かった。他の国の料理や風習にも興味があります。次回も期待しています」(50代女性)など、とても満足されている様子でした。

出来上がったカレーは持ち帰り、講師からは家でも一度作れるようにと貴重なスパイスをお土産にいただきました。参加者にとって、納得・満足〆の楽しい料理教室となりました。

近頃は守屋山、入笠山、黒姫山等にも登り始めた。里山は古からの山岳信仰や由来も多く、山容と共に楽しめる。古希を迎えた今、「継続は力なり」をモットーにコロナ禍にもめげず、気儘な山行きを楽しみたいと思っている。

北風南風

今年の2月に突然左目が見えなくなった。見えなくなったといっても、真つ白や真つ暗になつた訳ではなく、焦点が合わない状態▼眼科で診てもらつと、上部の毛様体が切れて下方にレンズが半分落下している「眼内レンズ脱臼」とのこと▼入院当日は御多分にもれず「新型コロナ検査」翌日は、落下した眼内レンズを除去して、別の眼内レンズを縫着する1時間半程の手術。手術翌日は37.4度の発熱があり、再度「新型コロナ検査」陰性▼院内の茶店にも行かず、ただただ大人しくし、複数の目薬や飲み薬を一人で規定どおりに点眼、服用し、入れたレンズが正規の位置に落ち着いた結果5日で退院となつた▼術後は右目で白く見える物が、左目では真つ白く見える。



(N.S)